

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-120	A-137	16-076
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
題名 (原題/訳)		
<p style="text-align: center;">Alcohol Consumption and Longitudinal Trajectories of Physical Functioning in Central and Eastern Europe: A 10-Year Follow-up of HAPIEE Study.</p> <p style="text-align: center;">中央・東ヨーロッパにおける飲酒と身体機能の縦断的關係について：HAPIEE Study10年追跡から</p>		
執筆者		
Hu Y, Pikhart H, Kubinova R, Malyutina S, Pajak A, Besala A, Bell S, Peasey A, Marmot M, Bobak M.		
掲載誌		
J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2016 Aug;71(8):1063-8. doi: 10.1093/gerona/glv233.		
キーワード		PMID
飲酒量、身体機能、中央・東アジア、コホート研究		26748094
要 旨		
<p>目的： 身体機能は高齢者の健康や生活の質において必須の分野である。健康行動は身体機能の主な決定要因であり、可變的である。断面研究では飲酒者の方が身体機能が良いが、縦断研究の結果は一樣でなく、飲酒量と身体機能との長期的な關係は明らかではない。</p> <p>方法： Novosibirsk (ロシア)、Krakow (ポーランド)、チェコの7つの町からなる28,783名の45-69歳の男女を対象に縦断研究を行った。問題飲酒はCAGE質問票を用いて、ベースライン時に調査した。身体機能はSF-36の一部を用いてPhysical Functioning Subscale(PF-10)をベースライン時に評価し、その後3回測定した。10年間追跡した飲酒量と身体機能の關係をgrowth curve modelingを用いて評価した。</p> <p>結果： 3つのすべてのコホートで身体機能は追跡期間中に低下した。通常頻度群・少～中等量飲酒群に比較して身体機能の低下が早かったのは、頻回に飲むロシアの女性、中等量飲酒のポーランドの女性、通常・大量飲酒のポーランドの男性であった。少量飲酒群に比べ非飲酒群で身体機能低下が早かったのはロシアの男性のみであった。問題飲酒(CAGE≥2)と過去飲酒は身体機能の低下と関連していなかった。</p> <p>結論： 本研究では、比較的飲酒量の多い中央・東ヨーロッパにおいてアルコールの身体機能に対する保護的な効果は見られず、アルコールは長期的に身体機能の低下をもたらす可能性が示唆された。</p>		